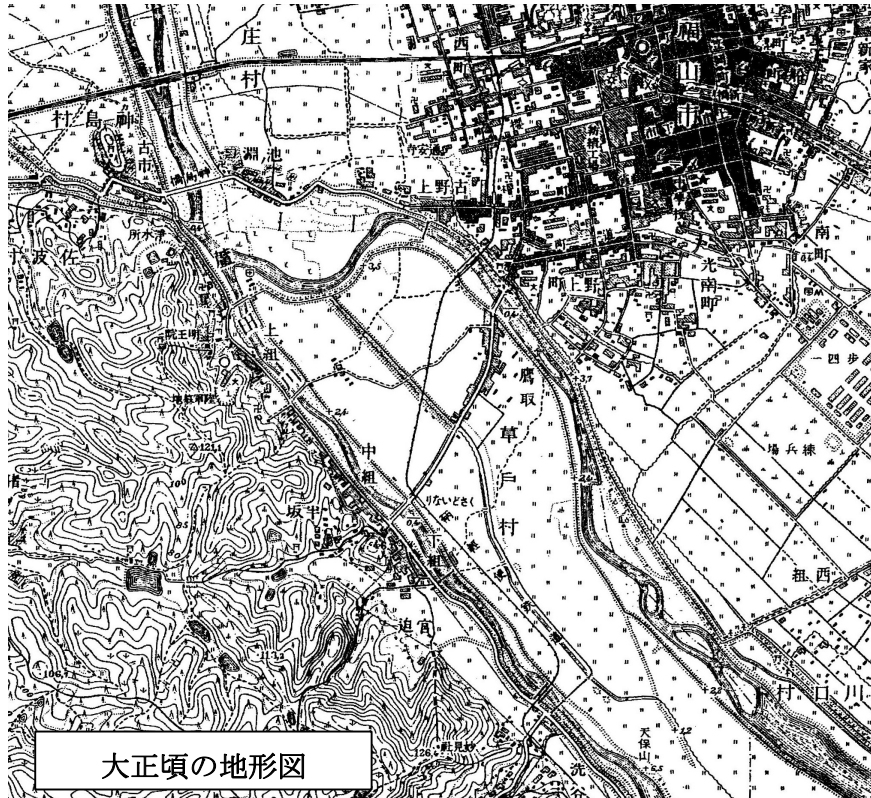


# ぶら<sup>○</sup>探訪

その参 福山発展の道を歩く

講師 田口義之

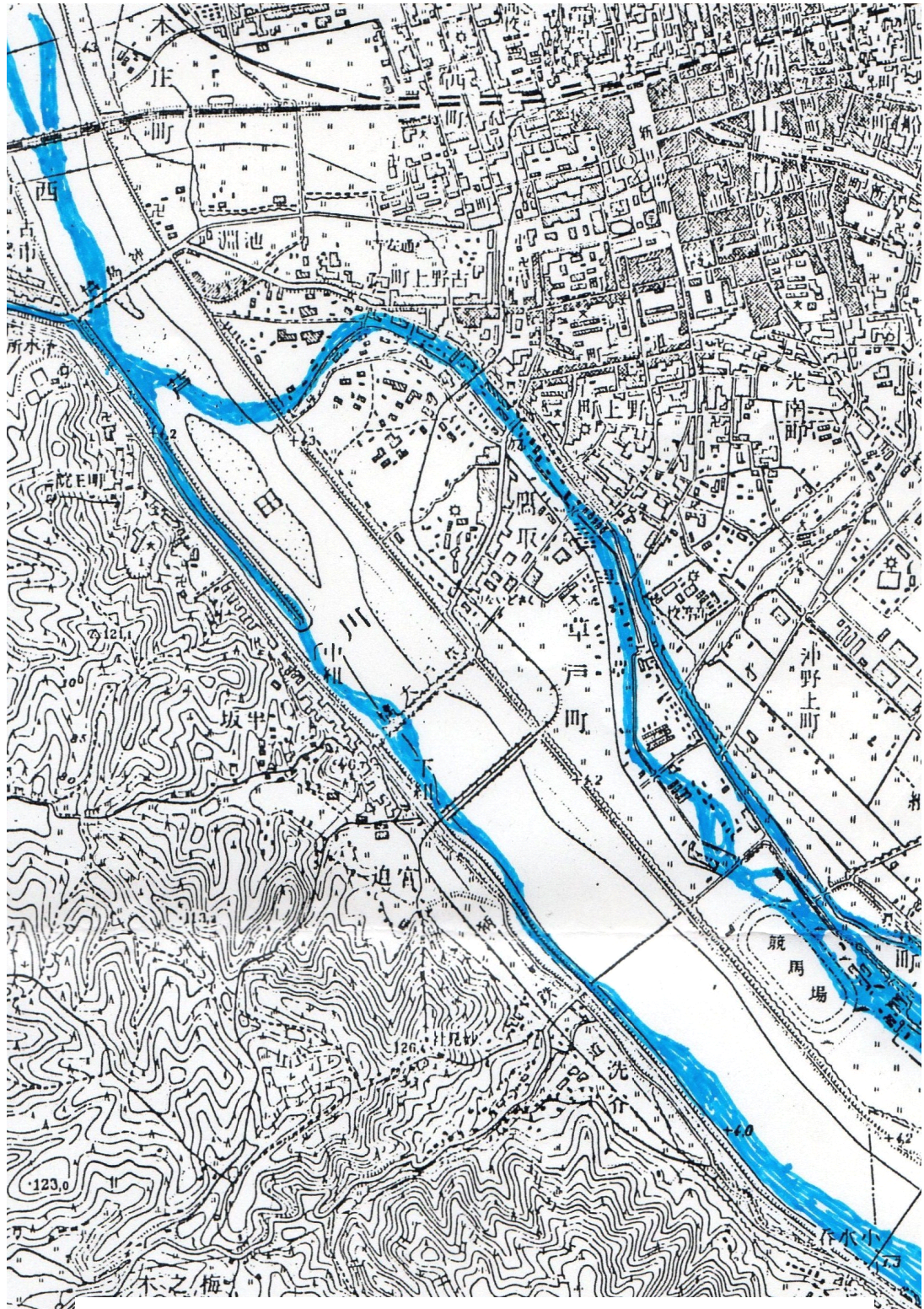
平成24（2012）年4月28日【土】午前9時スタート



## 主な見どころ

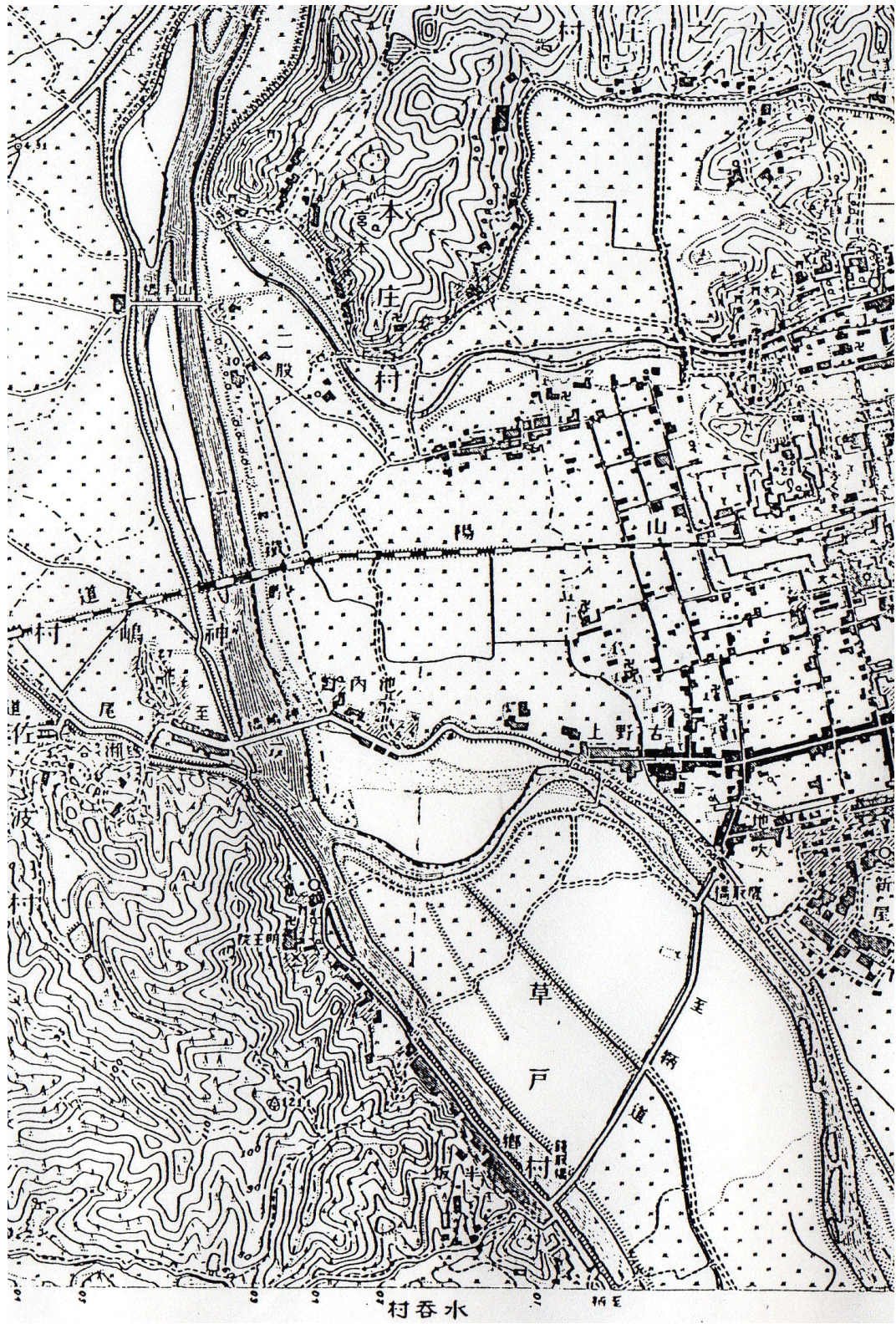
- 1、旧芦田川の流路・堤防・鷹取橋欄干
- 2、地吹荒神社
- 3、新四国八十八箇所（万延元年に設置されたもの）





昭和20年代の地形図





明治30年の地形図



## 古記録拾遺

### 「水野家御時代咄伝聞伝留書」

鷹ノ取

草戸村のうちに鷹の鳥と申すところ之有り候、水野様御代までは川筋へ大船入り込み候得共、上へなり候ては浅く候に付き、高荷を積み候船は右の鷹ノ辺にて上荷を取申し候由、全く高荷取と申す義を仰せその姿もなく成、自然と鷹の鳥と唱え来り候由

地葺

山田口津留外との辺りを地葺と唱え候は、福山御普請の節、柿板専ら右の場所に面扮に落とし候由、屋根の地の板を拵え候場所と申す訳にて、その頃自然と地葺と唱え来り候由

### 「備陽六郡志」

草戸村


往昔、芦田郡、安那郡辺りまで海にてありし節、本庄村、青木か端の辺りより五本松の前までの中島に、草戸千軒という町有けるか、水野の家臣上田玄蕃、江戸の町人に新涯を築かせける。水野外記という者いひけるは、この川筋に新涯を築きては、本庄村の土手の障りと成るへしと、固く留めけれとも、止むことを得ずして新涯を築、江戸新涯という。その後寛文一三年洪水の節、下知して、青木かはなの向かいなる土手を切ければ、たちまち水押し入り、千軒の町家とも押し流しぬ。この時より山下に民家建ち並び、中島には家一軒もなし…。

### 「福山志料」深津郡野上村

(前略) 草戸村組頭理助覚書ニ野上百姓はもと御城山に住す開城の時古野上へ移され城下次第に広まるにより再び村の下に移さる今の七軒屋これなりと云

古川 福山溜池ヨリ出テ松カ端ニテ海ニ入ル

下井出 本庄村ヨリ出テ川口村汐廻へ流レ海ニ入ル南側ニ五本松ノ渡アリ大松五株アルニヨリ名ツクコレ本流ニテニ派ハ支渠ナリ

	<b>備陽史探訪の会 事務局</b>
〒720 - 0824 福山市多治米町5 - 19 - 8	
TEL&FAX 084 - 953 - 6157	
E-メール b-tan-kai@009191.com	
公式ホームページ	
<a href="http://www3.plala.or.jp/big-eye/">http://www3.plala.or.jp/big-eye/</a>	